

令和 8 年度

学習シラバス



第 1 学年
滑川町立滑川中学校

第1学年 国語科学習シラバス

1 学習目標

- 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
- 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 学習の進め方

- 1年生では、小学校での学習を受けて、国語で正確に理解し適切に表現する力を伸ばし、「主体的・対話的で深い学び」を目指します。
- 知識・技能…・漢字の読みと書き ・事象や行為、心情を表す語句の量を増やす。・単語の類別 ・表現技法
・情報の扱い方 ・古典に親しむ。 ・書写
 - 思考・判断・表現…・話すこと・聞くこと、書くこと、読むことに関する事柄について理解を深める。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりする。
○評価の方法	○定期テスト、言語事項、作文（感想文、意見文等）、漢字テスト等
思考・判断・表現	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにする。
○評価の方法	○定期テスト、ノート、ワークシート、スピーチ、作文（感想文、意見文等）等
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合う。
○評価の方法	○意欲的に授業に取り組む姿勢、授業中の発言、仲間と協力して学ぶ態度、ノートや自己評価カードの記述、提出物の取り組み等

評 定 学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します

4 学習計画

学期	主な学習	学習の内容
1	○言葉に出会うために ○学びをひらく ○新しい視点で ○言葉に立ち止まる ○硬筆 ○いつも本はそばに	・音声の働きや仕組みについて理解を深める。 ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解する。 ・日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使う。 ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などを

		捉え、要旨を把握する。 ・自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見の関係などに注意して、話の構成を考える。 ・硬筆ペンを使い、字形や文字のバランス、きれいに書くための方法を理解する。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解する。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解する。 ・字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書く。
2	○心の動き ○筋道を立てて ○いにしえの心にふれる ○価値を見いだす ○いつも本はそばに ○書きぞめ	・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などを捉える。 ・目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈する。 ・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて自分の考えをまとめる。 ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。 ・共通語と方言の果たす役割について理解する。 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報の関係について理解する。 ・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考える。 ・話題や展開などを捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる。 ・文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむ。 ・古典には様々な種類の作品があることを知る。 ・毛筆の扱い方、行書について理解する。 ・漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く。
3	○自分を見つめる ○学びを深める	・単語の類別について理解する。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。 ・根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。 ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。

第1学年

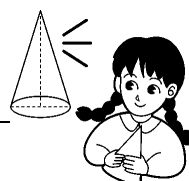
数学科学習シラバス

1 学習目標

- (1) 正の数と負の数について具体的な場面での活動を通して理解し、その四則計算ができるようにします。
- (2) 文字を用いて関係や法則を式に表現したり式の意味をよみとったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにします。
- (3) 方程式について理解し、一元一次方程式を用いることができるようにします。
- (4) 具体的な事象の中にある二つの数量の変化や対応を調べることを通して比例、反比例の関係を見だし表現し考察する能力を伸ばします。
- (5) 基本的な図形を見通しをもって作図する能力を伸ばすとともに、平面図形についての理解を深めます。
- (6) 図形を観察、操作や実験を通して考察し、空間図形についての理解を深めます。また、図形の計量についての能力を伸ばします。
- (7) 目的に応じて資料を収集し、整理する方法について理解を深めます。また、その資料の傾向を読み取る能力を伸ばします。

2 学習の進め方

- 1 計算練習の場を多く設ける。
- 2 友達との意見交換や、後で振り返ったときにわかりやすいように、ノートを工夫してまとめさせる。
- 3 問題練習により学習の定着を確認する。
- 4 自分の考え方や、解法を発表する場を設ける。



3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	学習への取り組み、定期テスト、授業中の課題など
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をみにつけている。	学習への取り組み、定期テスト、授業中の課題
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。	学習への取り組み、提出物（ワーク・テスト直しなど）

評 定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	○正の数・負の数 - 負の数の必要性及び正の数と負の数の意味 - 正の数と負の数の四則計算の意味 - 正の数と負の数の四則計算 - 具体的場面における表現や処理 - 数の集合と四則計算の可能性 ○文字の式 - 文字を用いることの必要性和意味 - 文字を用いた式における乗法、除法の表し方 - 簡単な一次式の加法と減法 - 文字を用いた式による表現や読み取り【不等式】	- 負の数の意味を理解し、正の数・負の数の必要性和有用性を知ります。 - 正の数・負の数の四則について理解し、それらの計算ができるようにする。 - 文字を用いることの意義を理解する。 - 文字を用いて、数量やその関係・法則を式に表したり、文字式の意味を読み取ったりできるようにする。 - 一次式の加法・減法の計算ができるようにする。 - 文字を用いた式における乗法、除法の計算ができるようにする。 - 数量の大小関係を不等式に表すことができるようにする。
二 学 期	○方程式 - 方程式及び解の意味 - 等式の性質と方程式 - 比と比例式 - 一元一次方程式を解くこと、その活用 ○変化と対応 - 関数関係の意味 - 比例・反比例の意味 - 座標の意味 - 比例、反比例の特徴 - 比例、反比例を用いた具体的事象の説明 ○平面図形 - 図形の移動 - 基本的な作図 ・円とおうぎ形の弧の計量	- 方程式及び、その中の文字や解の意味を理解する。 - 等式の性質を見だし、方程式が等式の性質に基づいて解けることを理解する。 - 一元一次方程式が解けるようにする。 - 簡単な比例式を解くことができるようにする。 - 一元一次方程式を具体的な事象に活用できるようにする。 - ともなう変わる数量の関係を理解する。 - 座標、比例、反比例の意味を理解する。 - 比例、反比例を表、式、グラフなどで表すことができるようにします。また、その特徴が分かるようにする。 - 比例、反比例の見方や考え方を具体的な事象の中で活用できるようにする。 - 基本的な移動（線対称、点対称）を使い、図形を移動させることができるようにする。 - 定規、コンパスを用いて、角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図が正しくできるようにする。 - おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができるようにします。 - 円の対称性を利用し、円周上の点における接線の作図の方法が分かるようにする。
三 学 期	○空間図形 - 空間における直線や平面の位置関係 - 空間図形の構成や表現【投影図】 - 柱体、錐体、球の表面積と体積 ○データの活用 - 資料の散らばりと代表値 - ヒストグラムや代表値の必要性和意味、資料の傾向の把握と表現 - ことがらの起こりやすさ	- 直線と直線の位置関係について分かるようにする。 - 直線と平面、平面と平面の位置関係について分かるようにする。 - 線分の運動によって空間における面が構成されるという見方ができるようにする。 - 平面図形の運動によって立体が構成されるという見方ができるようにする。 - 見取図や展開図、投影図を活用し、空間図形のもつ性質を考え、理解を深めることができるようにする。 - 柱体、錐体、球の表面積、体積を求めることができるようにする。 - ヒストグラム、代表値、相対度数の必要性和意味が理解できるようにする。 - 資料の傾向をとらえ説明できるようにする。 - 確率の意味を知る。

第 1 学年 社会科学習シラバス

1 学習目標

- 日本や世界の地理的事象に対する関心を高める
- 地理的な見方や考え方の基礎を培う
- 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解する

2 学習の進め方

- 1 1・2年生の授業は、地理的分野と歴史的分野を並行して学習していきます。
- 2 社会科は、社会的な見方・考え方を働かせながら、自ら課題を見いだして自ら解決していくことを学習する教科です。学習する形態は、個人のときもあり、班で活動することもあります。
- 3 授業はプリントを中心に進めます。教科書、地図帳などを活用しながら、自分の考えをまとめます。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係などに関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	・定期テスト ・レポート ・観察、実験 ・ワークシート
思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論している。	・発表の様子や発表内容 ・ワークシート ・課題レポート ・定期テスト ・グループでの活動の様子
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	・授業中の発言、態度 ・ノート、レポートへの取組 ・自己評価 ・定期テスト

評 定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

<地理的分野>

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	世界と日本の地域構成 ・世界の姿 ・日本の姿	・世界を地理的に認識するための座標軸として、地球儀や世界地図を活用して、大陸と海洋の形状や分布を取り上げ、地球規模での位置関係をとらえるための知識と技能を身につける。 ・日本の国土の位置及び領域の特色と変化を世界的な視野から多面的・多角的に考察し日本の現状を位置と領域の面から大観させる。
二 学 期	世界のさまざまな地域 ・人々の生活と環境 ・世界の諸地域	・地域で異なる自然環境の違いを写真や映像資料、雨温図、統計資料からとらえる。 ・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。 アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解する。 ・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。 ・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。

<歴史的分野>

一 学 期	歴史へのとびら ・歴史学習のはじめに ・歴史をとらえる見方・考え方 ・身近な地域の歴史 古代までの日本 ・世界の古代文明と宗教のおこり	・歴史上の人物や出来事などについて、調べたり考えたりする活動を通して、歴史を学ぶ意欲を高める。 ・国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとのかかわり、古墳の広まり、大和政権による統一を通してとらえる。
二 学 期	・日本列島の誕生と大陸との交流 ・古代国家の歩みと東アジア世界 中世の日本 ・武士の台頭と鎌倉幕府	・大陸の文化や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後天皇・貴族の政治が展開されたことを、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至る過程、摂関政治を通して理解する。 ・平安時代の社会から生まれた武士がしだいに力をつけ、鎌倉幕府が成立するに至る経緯のあらましを理解する。
三 学 期	・東アジア世界とのかかわりと社会の変動	・東アジア世界とのかかわりをモンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割を通して理解し、その関わりが中世の日本に及ぼした影響を考える。

第1学年

理科学習シラバス

1 学習目標

- 身近な自然の事物や身のまわりの現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- 観察・実験などを行い、科学的に探求する力を養う。
- 自然の事物や現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど科学的に探究しようとしている。

2 学習の進め方

- 1 日常生活とのかかわりを考えながら授業を行います。
- 2 観察・実験を通して規則性や共通することを考えていきます。
- 3 観察・実験は少人数（2人～4人程度）で行います。
- 4 観察・実験結果や考察をノートや実験プリントにまとめて提出します。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

①知識・技能	自然事象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察・実験に関するきほんてきな基本操作などの技能を身につけている。	⇒	①観察・実験のようす 実験プリント 基礎操作の実技テスト 定期テスト 単元ごとの小テストなど データ処理など
②思考・判断 表現	自然事象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	⇒	②実験プリントの記述分析 定期テストなど
③主体的に学 習に取り組む 態度	自然事象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	⇒	③実験プリント 授業での発表内容 レポート 授業の課題に向かう姿勢 定期テスト

評 定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	いろいろな生物とその共通点 ○生物の観察と分類のしかた ・生物の観察 ・生物の特徴と分類 ○植物の分類 ・花のつくり ・果実をつくらない花 ・葉や根のつくり ・種子をつくらない植物 ・さまざまな植物の分類 ○動物の分類 ・身近な動物の分類 ・脊椎動物 ・無脊椎動物 ・動物の分類表の作成 身のまわりの物質 ○身のまわりの物質とその性質 ・物の調べ方 ・金属と非金属 ・様々な金属の見分け方 ・白い粉末の見分け方 ○気体の性質 ・身のまわりの気体の性質 ・気体の性質と集め方	○校内や学校周辺の植物の種類やからだのつくりを観察する。 ○ルーペや顕微鏡の操作、スケッチの仕方など、生物の調べ方の基礎を身につける。 ○花のつくりを観察し、共通点を見つける。 ○根・茎の切片を観察し、水の通り道(道管)について理解する。 ○種子植物の仲間分けについて理解する。 ○花が咲かない植物について仲間分けする。 ○セキツイ動物を生活場所や体表、呼吸方法などで分類する。 ○無セキツイ動物を分類する。 ○加熱器具・上皿てんびんの使い方など実験器具を正しく安全に使えるようにする。 ○身のまわりの物質の性質を調べ、共通の性質を見つける。 ○気体の実験から、気体の特徴と集め方を理解する。 ○状態変化をするとき、体積は変化するが質量は変化しないことを理解する。 ○沸点・融点・蒸留について理解する。
二 学 期	身のまわりの物質 ○水溶液の性質 ・物質が水に溶ける様子 ・溶解度と再結晶 ○物質の姿と状態変化 ・物質の状態変化 ・物質の状態と体積・質量の変化 ・状態変化が起こるときの温度とその利用 身のまわりの現象 ○光の世界 ・物の見え方 ・光の反射 ・光の屈折 ・レンズのはたらき ○音の世界 ・音の伝わり方 ・音の大きさや高さ ○力の世界 ・日常生活のなかの力 ・力のはかり方 ・力の表し方	○物質が水にとけるようすを観察する。 ○溶質・溶媒・溶液・濃度について理解する。 ○溶解度・再結晶について理解する。 ○ろ過の仕方など実験の基礎操作を習得する。 ○光の道筋を直線で表す。 ○光の反射・屈折・全反射の規則性を理解する。 ○凸レンズによってできる像を理解する。 ○音の伝わり方や音の大小・高低と物体の振動との関係を理解する。 ○「力」の単位ニュートン(N)を知り、力を矢印で表すことができる。 ○力の大きさ・向き・作用点の作図ができる。 ○2力がつり合うための条件を見いだす。
三 学 期	大地の変化 ○火をふく大地 ・火山の姿から分かること ・火山の噴火によって噴出されるもの ・火山活動と火成岩 ・火山とともにくらす ○動き続ける大地 ・地震の揺れの伝わり方 ・地震が起こるところ ・ 地震に備えるために ○地層から読み取る大地の変化 ・地層のなり立ち ・堆積岩 ・地層や化石からわかること ・大地の変動 ・身近な大地の歴史	○火山の形とマグマの性質を関連づけて理解する。 ○火成岩をつくる鉱物や冷え方と火成岩の種類を関連づけて理解する。 ○地震の原因やゆれの伝わり方について説明できる。 ○震源・震央・震度・マグニチュードなどのことばについて説明できる。 ○火砕流や津波などについて理解する。 ○地層がどのようにしてできたのか理解する。 ○堆積岩を観察し、特徴とでき方を関連づけて考えることができる。 ○化石からわかることを説明できる。

第1学年

英語学習シラバス

1 学習目標

- はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができる。
日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。
- 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。
- 関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて話すことができる。
- 関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。

2 学習の進め方

1 年生では教科書本文の音読に注力します。すらすらと文章を読めるようになることで、文章内容が理解しやすくなります。また、教科書を真似て話したり、書いたりすることを積み重ねることで、3 年生になったときに自分の言葉で話したり、書いたり表現することがより良くなるようになります。

各学期末には、教師や ALT、友人を相手に活動場面を設定し、実際のコミュニケーションを通して自身の課題発見とその解決を支援します。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点は A B C の 3 段階です。

評価方法

①知識・技能	正しい語句や文法の特徴やきまりを理解している（知識） 言葉の特徴やきまりを理解して、正確に表すことができる（技能）	➡	①言語の正確さを図ります。 ・パフォーマンステスト ・ワークシート ・活動観察 ・ペーパーテスト など
②思考・判断 表現	状況、場面に応じて、日常的な話題や社会的な話題について情報を整理したり、伝え合ったりすることができる。	➡	②内容の適切さを図ります。 ・パフォーマンステスト ・ワークシート ・活動観察 ・ペーパーテスト など
③主体的に学習に取り組む態度	技能、表現力を身に付けるための粘り強い取り組みや、自らの学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤するなど調整しながら学ぶ態度が備わっている。	➡	③学習への主体的な姿勢を図ります。 ・パフォーマンステスト ・振り返りカード ・ポートフォリオ ・活動観察 ・ワークシートなど

評 定

学期末に 1・2・3・4・5 の 5 段階で示します。

4 学習計画

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	Unit0 Nice to Meet You	クラスメートとあいさつをしたり、好きなものをたずね合うことができる。
	Unit1 Hello, Everyone!	自分のことを伝えたり、相手のことをたずねたりすることができる。
	Unit2 Our New Teacher	身近な人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。
	Unit3 Our School	知らないものや人についてたずねたり、いつ・どこなのかをたずねたりすることができる。
	Unit4 Friends in New Zealand	数や時刻、好きなものについてたずねたり、指示や助言をしたりすることができる。
	Stage Activity 1 "All about Me" Poster	自分の好きなことについて、つながりのある文章を書くことができる。
二 学 期	Unit5 My Brother in Hawaii	自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。
	Unit6 A Rakugo Performer from the U.K.	自分と相手以外の人について話したり、だれのものかをたずねたりすることができる。
	Unit7 An Online Tour of the U.K.	今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。
	Unit8 Think Globally, Act Locally	したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、たずねたりすることができる。
	Stage Activity 2 My Hero	好きな有名人やあこがれの人についてたずねたり、説明したりすることができる。
三 学 期	Unit9 Winter Vacation	過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。
	Unit10 This Year's Memories	過去の状態や気持ち、過去のある時点にしていたことについて説明することができる。
	Stage Activity 3 My Favorite Event This Year	思い出に残った出来事について発表することができる。

令和8年度 滑川中学校 音楽科シラバス（第1学年）

1 学習目標

- 曲想と音楽の構造や背景などとの関り及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- 主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

2 学習の進め方

- 1 歌唱では、姿勢、口形、呼吸法、発声法など、基本的なことを繰り返し練習します。
- 2 器楽では、アルトリコーダー・器楽演奏・リズム奏法を中心に、基本的な奏法を身に付けます。
- 3 創作では、創意工夫を生かして音楽を作るために必要な技能を身に付けます。
- 4 曲の演奏・表現に必要な音符や記号などについて理解しましょう。
- 5 様々な時代や地域の音楽に興味・関心を持って鑑賞しましょう。

3 評価の観点・評価方法

評価の観点はA・B・Cの三段階です

評価の観点		評価方法
知識・技能	音楽を表現するための基礎的な知識・技能を身に付けている。	・授業中の取り組み ・実技テスト ・定期テスト ・提出物（ワーク等）
思考・判断・表現	音や音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫して生かしている。	・授業中の取り組み ・実技テスト ・定期テスト ・提出物（ワーク等）
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽への興味・関心を持って、意欲的に表現しようとする。	・授業中の取り組み ・授業道具の忘れ物 ・提出物の状況 ・実技テスト ・定期テスト ・振り返り（毎時間）

評 定	学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。
-----	-------------------------

4 学習計画

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学期	○心を伝え合う歌い方を求めて ・校歌 ・合唱曲 ○思いをこめて合唱しよう ・We' ll Find The Way ・その先へ ○イメージと音楽との関わりを感じ取ろう ・イメージと音楽 ○音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべよう ・春 ○曲の構成を感じ取って、表現を工夫しよう ・リコーダー LESSON 1 ○音のつながり方の特徴を生かして、創作表現を工夫しよう ・リズムゲーム	●新しい仲間と声を合わせて楽しく表現することができる。 ●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌うことができる。 ●曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。 ●表したいイメージと関わらせながら、音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、それらを生かした創作表現を創意工夫して音楽をつくることができる。 ●楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫して演奏することができる。 ●表したいイメージと関わらせながら、音のつながり方の特徴について理解するとともに、それらを生かした創作表現を創意工夫して旋律をつくることができる。
2 学期	○豊かな混声合唱の響きを味わおう ・校内合唱コンクールの曲 ○曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう ・魔王 ○日本の歌のよさや美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫しよう ・浜辺の歌 ・赤とんぼ	●合唱の楽しさを感じ取ることができる。 ●パートリーダーを中心として自主的に合唱の練習をすることができる。 ●各声部の役割を感じ取り、全体の響きに気をつけて合唱することができる。 ●曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。 ●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌うことができる。
3 学期	○和楽器の響きと我が国の伝統的な歌唱に親しもう。 ・雅楽 ・六段の調 ○日本の民謡に親しもう。 ・ソーラン節 他 ○仲間とともに、表情豊かに合唱しよう ・国歌・校歌	●曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ●声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。 ●卒業式に向けて心のこもった感性豊かな表現の工夫ができる。

第1学年 美術科 シラバス

1 学習目標

- 美術科では、制作活動、鑑賞を通して美術を愛好する心情を育てること、また生涯学習として役立つ技術を習得することを目指しています。
- 絵画や彫刻、デザインや工芸、鑑賞の各分野について、基礎基本を習得します。
- 美術文化について理解を深め、豊かな情操を養います。

2 授業の基本・学習の進め方

- 1 普段から様々な体験をし、豊かな人生を送ることを心がける。
- 2 決まりや安全を守り、その上で自由に発想する。
- 3 自分の表現を大切にし、他の表現を尊重する。
- 4 真剣に、最後まで突き進む。
- 5 必要のない動きはせず、準備は休み時間中に、片付けは授業中に終わらせる。
- 6 授業はできるだけ休まない。休んだら、先生や友達に授業内容を必ず確認する。
- 7 美術系の連絡を注意して聞く。前日までに必要な道具を準備する。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。		評価方法
① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて表現方法を工夫して表している。	作品の完成度(絵画、デザイン、彫刻、工芸など課題によって求められる技能が変わります)、小テスト、ワークシート
② 思考・判断・表現	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	作品そのものから読み取れる発想の豊かさや表現の工夫、アイデアスケッチ、ワークシート、鑑賞授業の感想文、自分の作品の説明文、友達の作品へのコメント等
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	制作態度全般(発言、文章の記述量や質、忘れ物、集中して取り組んでいるか、完成させ期限を守ったか等)

評 定	学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。
-----	-------------------------

4 学習計画

学期	おもな学習内容	学習のねらい
1 学期	○見つめるとみえてくるもの ○私の心と手	・鉛筆の基本的な扱い方を身につけ、線や濃淡を工夫して表現できるようにする。 ・色や形、着彩方法を工夫して感情の表現をできるようにする。
2 学期	○生き生きした姿を表す ○屏風 美のしかけ	・材料や用具の特性を理解し、適切に選びながら見通しをもって制作できるようにする。 ・作品のよさや美しさを感じ取り、自分の言葉で表現できるようにする。
3 学期	○絵文字をつくろう	・身近なところにあるデザインされた文字を鑑賞し、形や色彩から受ける印象やその違いについて考えられる。 ・文字の意味やイメージを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考えてデザインできる。

1 学習目標

○技能	各運動の特性に触れて運動の楽しさや喜びを味わうとともに、運動を実践することで体力の向上を図り、基礎基本の技能を身につける
○態度	公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす等の意欲を育てるとともに、健康・安全に留意しながら運動する態度を育てる
○学び方	各運動の特性と自己の能力に応じて課題解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）を行えるように工夫する

2 学習の進め方

○男女共習を基本とする
○授業規律について丁寧に指導する
○学習カードに記入について、指導を工夫する
○運動や健康・安全について留意し、積極的に取り組む態度を育てる
○仲間と協力し、教え合い、高め合う活動となるように指導する

3 評価の観点・評価の方法

各観点をABCの3段階で評価し、1～5の5段階で評定を示す

観点	基準	評価方法
知識・技能	○運動や健康・安全について理解している ○運動の技能を身につけ、実践することができる	・ルールの理解 ・技能の高め方の理解 ・技能の習熟状況 ・特性や歴史、名称等の理解
思考力・判断力・表現力等	○運動の仕方を工夫し、技能の向上や健康・安全について正しく判断することができる	・学習カード ・活動観察
主体的に学習に取り組む態度	○積極的に授業に参加し、運動の特性を味わうことができるようにしている	・授業に取り組む態度 ・活動観察

4 学習計画

学期	主な学習内容	学習のねらい
1	○体育理論 ○体づくり運動・新体力テスト ○陸上競技Ⅰ（短距離走・リレー） ○陸上競技Ⅱ（走り幅跳び）	・運動に対する理解を深めることができる ・体づくり運動の必要性を理解し、意欲的に取り組むことができる ・体力テストで自己の体力を知り、課題を知ることができる ・自己の能力を知り、記録を伸ばすための工夫をすることができる ・バトンパスの方法などを工夫し、記録の向上を目指すことができる ・自己の能力を知り、記録を伸ばすための工夫をすることができる

	○球技Ⅰ（ソフトボール） ○器械運動（マット運動） ○水泳	・基本的な個人技能や集団技能を習得し、チームで協力してゲームを行うことができる ・ルールを守り、安全に留意して練習やゲームを行うことができる ・できる技を高め、新しい技に挑戦する意欲を持って取り組むことができる ・自己の泳力の程度を知り、泳力に応じた課題に意欲的に取り組むことができる
2	○体づくり運動 ○球技Ⅰ（ソフトボール） ○器械運動（マット運動） ○陸上競技Ⅲ（長距離走） ○保健 ○柔道 ○ダンス	・体力の高め方について理解することができる ・基本的な個人技能や集団技能を習得し、チームで協力してゲームを行うことができる ・ルールを守り、安全に留意して練習やゲームを行うことができる ・できる技を高め、新しい技に挑戦する意欲を持って取り組むことができる ・心身の機能と心の発達について考え、中学生としての成長を理解することができる ・技の仕組みを理解し、「受け・取り」及び「体落とし」ができる ・仲間と協力し、基本動作について意見を交換しながら積極的に活動することができる ・創作ダンスを中心に仲間と協力し、意見を交換しながら作品づくりに取り組むことができる
3	○体づくり運動 ○球技Ⅱ（サッカー・バスケットボール） ○球技Ⅲ（サッカー・バスケットボール） ○保健	・体力の高め方について理解することができる ・自己の体力を高める運動の方法を理解し、工夫をするとともに、積極的に取り組むことができる ・基本的な個人技能や集団技能を習得し、チームで協力してゲームを行うことができる ・ルールを守り、安全に留意して練習やゲームを行うことができる ・心身の機能と心の発達について考え、中学生としての成長を理解することができる。

第1学年 技術・家庭科学習シラバス

1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○技術分野の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○家庭分野の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 学習の進め方

「技術分野」および「家庭分野」の2分野で構成されています。技術分野の内容は、A「材料と加工に関する技術」 B「生物育成に関する技術」 C「エネルギー変換に関する技術」 D「情報に関する技術」、家庭分野の内容は、A「家族・家庭生活」 B「衣食住の生活」 C「消費生活・環境」で構成されています。

【技術分野】

A「材料と加工に関する技術」の学習では、設計から製作まで自分で考え、いろいろな材料を使って生活に役立つものを完成させます。

B「生物育成に関する技術」の学習では、生物育成の生育条件、技術等を学び、育成生物を計画的に育てることができるような学習をします。

C「エネルギー変換に関する技術」の学習では、エネルギー変換に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得し、生活に役立つ簡単な電気製品の制作を行います。

D「情報に関する技術」の学習では、情報化社会のなかで生活の道具として利用されるコンピューターを使って、情報の収集や発信をし、適切に活用できる能力を育成します。

【家庭分野】

・「衣食住の生活」の学習では、衣服の手入れ、食生活について、補修、室内環境の設備と住まい方について、実践・体験をし、生活に役立つ事を身につけます。

・「家族・家庭生活」の学習では、自らの成長を振り返り、幼児の観察や遊び道具の製作、幼稚園訪問を通して、家族や家庭生活との関わりができる能力の育成をします。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

知識及び技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	→	・定期テスト ・レポート ・製作作品
思考、判断、表現	こらからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	→	・定期テスト ・ワークシート ・製作作品 ・ポートフォリオ
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	→	・授業への取り組み ・ワークシート ・ポートフォリオ

評 定	学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。
-----	-------------------------

4 学習計画

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	【技術分野】 G ガイダンス ● 技術を見つけよう ● 技術とわたしたちの生活 ● 技術分野の学習 A 材料と加工に関する技術 ●ものづくりの工夫と進め方 ●材 料	生活に役立つ作品の完成を目指して意欲的に学習する。 ・材料の性質と特徴を調べることができる。 ・機能、構想を知り、考えることができる。 ・構想図の書き方を理解することができる。 ・材料の加法方を知り、実践できる。 ・工具の使い方を知り、安全に作業できる。 ・組み立てを正確にすることができる。
二 学 期	●設 計 ●実 習 ●製 作 ○木材、金属、プラスチック等による製作 ●材料と加工に関する技術とわたしたち	
二 学 期	【家庭分野】 ●ガイダンス A 家族・家庭生活 ●わたしの成長と家族 ●家族・家庭や地域との関わり B 衣食住の生活 ●健康と食生活 ●中学生の栄養と食事について考えよう ●中学生の1日分の献立 ●食品の選択と保存 ●調理をしよう ・肉料理 ・魚料理 ・野菜料理	生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を身につけるため意欲的に学習する。 ・食事が果たす役割や健康と食事との関わりについて知ることができる。 ・栄養素の種類と働き」を知ることができる。 ・食品の栄養的特質を知ることができる。 ・中学生に必要な栄養素を考え1日分の献立を立てることができる。 ・食品の選択と日常食の調理の基礎について知ることができる。 ・食生活の安全と衛生に留意し、食品や調理器具等の適切な管理ができる。
三 学 期		